SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

自由再生におけるビデオ文脈依存効果

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学 公開日: 2016-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森井, 康幸 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009594

（課程博士・様式９）　　審　査　要　旨

専攻　情報科学　　学籍番号　5504-5015　　学生氏名　森井康幸

論文題目　自由再生におけるビデオ文脈依存効果

人間が認知的情報処理をするとき，情報処理の対象だけではなく，その処理を取り巻く偶発的な環境情報も情報処理に影響を与える。本論文は，情報処理体験の記憶におよぼす偶発的環境情報，その中でも，コンピュータ環境のビデオの文脈依存効果について，実験的に検証している。

まず，第 1 章－第 2 章で記憶や文脈の概念について概括し，認知科学の環境的文脈依存研究の中に本論文の研究を位置づけている。

第 3 章では，実験 1 を行い，ビデオ文脈を視覚情報，動的情報，聴覚的情報の加わった複合文脈としてとらえ，どの構成要素がビデオ文脈依存効果に寄与しているのかを検討した。その結果，Smith & Manzano (2010)の用いた手続きには，文脈依存効果を過大評価させる方法論上の問題として，(1)再生反応を同文脈と異文脈に分類する方法と，(2)反応抑制の可能性を指摘した。

第 4 章では，2 つの実験によって，第 3 章の指摘を検証した。実験 2 では，ビデオ文脈と学習項目とを関連づける群と関連づけない群でビデオ文脈依存効果の大きさを検討した。さらに，各再生反応が，どのビデオ文脈を手がかりにしているのかを測定した。その結果，関連づけなし群でも文脈依存効果が得られたが，その効果サイズはかなり低減した。実験 3 では，反応抑制等の問題を解消するため，文脈の異同の要因を実験参加者間で操作した。その結果，実験参加者間の比較においても文脈依存効果が確認された。

第 5 章では，ビデオと静止画像の文脈依存効果の違いを再検討した。文脈の異同と文脈の種類（ビデオと静止画）の 2 要因ともに実験参加者内で操作した。その結果，今回もビデオと静止画像間の文脈依存効果の生起に違いは見いだせなかった。

最後に第 6 章では，実験的に検証した事実からビデオ文脈の特性について考察した。(1) Smith & Manzano (2010)のビデオ文脈依存効果は，かなり過大評価されている。(2) このため，再生反応の分類方法や反応抑制の問題点を改善しところ，きわめて大きな効果サイズはかなり減少した。(3) それでもなお，ビデオ文脈は有意な文脈依存効果を引き起こす。(4)ビデオ文脈依存効果の生起を特徴づけているのは，コンピュータ画面上に提示されるビデオ文脈と学習項目との間の 1 対 1 連合の形成である。

本論文は，エピソード記憶の基本的性質である文脈依存効果の機構を，ビデオ文脈を操作した実験によって調査し，種々の発見を行った。そして，始まったばかりのビデオ文脈依存効果の生起機序に関する基礎的・実証的な知見を提供するものであるとともに，今後の発展的研究につなげるものである。これらは情報学の基幹となる認知科学の領域において，多大な貢献をするものと評価できる。

以上より，博士（学術）の学位を与えるのにふさわしいものと認定する。